

□ 日本文教出版 平成27年度版「わたしと せいかつ」下巻を活用した6月始まりの年間活動計画案(簡略版)

■留意事項

<p>①基本的な感染症対策の実施 感染症対策のポイントは、「感染源を絶つこと」「感染経路を絶つこと」「抵抗力を高めること」であることを踏まえ、以下のような取組を行うこと。 1) 感染源を絶つこと 次の方法により、発熱等の風邪の症状がみられる児童生徒等については、自宅で休養させることを徹底すること。教職員についても同様の対応とすること。 ◎ 家庭と連携した毎朝の検温及び風邪症状の確認◎ 登校前に確認できなかった児童生徒等については、保健室等での検温及び風邪症状の確認 2) 感染経路を絶つこと 手洗いや咳エチケットを徹底する。</p> <p>②集団感染のリスクへの対応 ① 換気の悪い密閉空間にしないための換気の徹底 ② 多くの人が手の届く距離に集まらないための配慮 ③ 近距離での会話や大声での発声をできるだけ控える など、保健管理や環境衛生を良好に保つような取組を進めていくことが重要であるとされている。</p>	<p>文部科学省[新型コロナウイルス感染症に対応した学校再開ガイドライン]より一部抜粋 https://www.mext.go.jp/content/20200406-mxt_kouhou01-000006156_1.pdf</p>
---	--

月	単元名	関連する主な内容	配当時数例	4月始まりの標準的な時数	単元目標	感染防止策を踏まえた手立て
4月						
5月						
6月～8月	大きく そだて みんなの 野さい	(7)(8)	16+α	20+α	<ul style="list-style-type: none"> 野菜づくりを計画的に行うことで、野菜の育て方や育てるための様々な工夫に気付くとともに、友だちと協力して取り組むことの喜びを味わうことができるようにする。 継続的な栽培活動を通して、野菜をはじめ植物には命があり、大切なものだということを実感できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちとは両手を広げて当たらない距離をとる指示する。 話し合いは、椅子だけ方向を変えておこなう。 種まきなどの季節を提示し、育てられる野菜を伝えようで調べさせる。 植木鉢は、2m程度程度間隔をあけて設置し、観察の時に間隔をあけたまま観察できるようにする。 模造紙に困ったことを書いておき、付箋などで友だちから考えを貼ってもらおう。 計画を基に家庭で料理をし、その様子を写真や絵、インタビューなどで記録をとっておく。※家庭環境に配慮が必要。難しい場合は、栽培暦や紙芝居の作成など、教室での活動に置き換えてもよい。 全体で発表するときは、マイクを活用する。 冬野菜については、冬休みの課題として、計画したり料理をしたり、まとめ、3学期の初めに交流する。
	生きものと いっしょに	(2)(8)	14+α	16+α	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生き物を探したり飼育・観察したりする活動を通して、自然環境や生き物への親しみをもつとともに、生命の不思議さを感じ、それらを大切にしようとする心情をもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いは、椅子だけ方向を変えておこなう。 ルールとして手洗い、友だちとの距離や声の大きさなども入れておく。 可能であれば、1人1つ虫かごやペットボトルを準備し、それぞれが観察できるようにし、密着を避ける。 図工や国語など教科横断的に取り組むことで時間の削減を図る。 ホワイトボードなどを活用し、視覚的にも理解を促す。 地区によっては、容易に生きものが入手できない場合も考えられる。その場合は、教室での飼育、獣医師や動物園との連携など十分な配慮を行う。ウサギやモルモットなどの飼育をすることもできる。
7月～8月	夏休みに したい ことは…	(2)(8)	8	10	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みにしてみたいことやどのように過ごしたかを考えて、計画を立てることができるようにする。 活動の記録をもとに、友だちや先生に夏休みの思い出をわかりやすく伝えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域によって夏休み短縮となることを想定し、チャレンジすることを考えられるよう計画を立てる。 夏休みが短期間になった場合、家庭での課題として取り組めるよう手立てを提示する。 全体で発表するときは、マイクを活用する。 1人に1枚模造紙半分程度の紙を用意し、それぞれが発表を聞いて気付いたことなどを付箋に書き、乾燥の交流を図る。
9月～11月	あそびの たつ人 あつまれ	(6)(8)	14+α	18+α	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある材料を利用して、簡単な仕組みで動くおもちゃを工夫してつくり、その面白さや見えない力の不思議さに気付くことができるようにする。 みんなで協力して遊び方を工夫しながら楽しむことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料については基本的にそれぞれ家庭から持ってきたものを使用する。 密着、密接の状況を作りやすいため、できる限り一緒に遊ぶことは避ける。 グループで活動するときも距離や声の大きさなど、これまで習慣化してきたことを確認する。 会話をなるべく避け、気付いたことなどは付箋に書き、アドバイスする。 グループ活動やあそびの広場ができない場合は、それぞれの机におもちゃを置き、順番に遊んでまわる。 状況によって招待ができないときは、職員に参加を依頼する。また、少人数であればできるだけ1年生に少人数ずつ来てもらうよう調整する。 全員が同じことをすると接触の機会が増えるため、役割分担をしておく。
12月～1月	発見！ 町へ とび出そう	(3)(4)(8)	16	22	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが住んでいる町の商店や公共施設などの見学を自分たちで計画し、計画に基づいて探検することができるようにする。 町で働く人や町の様子(人・もの・こと)などを観察したり、調べたりすることで、自分たちの地域に関心を持ち、人と関わる喜びを味わうことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 校区地図を配布し、どんな施設があるか書く。 模造紙サイズに校区地図を印刷し、全体の気付きを付箋に書いたり貼ったりする。 可能であれば、探検先を探し、計画するが、できない場合は、探検先の方に来校してもらいインタビューさせてもらったり、お手紙で聞きたいことを聞く準備をする。 話し合いするときは椅子のだけを変えて行う。 直接会って話をできないことも想定し、訪問先で何が知りたいかを確認し、教員は外向いて写真などをとって視覚支援を行い、子どもが思いを膨らませることができるように準備する。 実際の探検が難しい場合は、ZOOM、LINEなどでオンラインミーティングができないか等も相手先と調整する。ビデオレターの往復も考えられる。 手紙などで帰ってきた場合は、必要数コピーする。 来校してのインタビューになった場合は、あらかじめ距離などについて確認する。 発表のしかたについては密接・密集しないように距離をとる。 発表の様子はビデオを撮り、感謝の手紙とお世話になった方に渡せるよう準備する。
1月～3月	わたしの すてきが はばたく	(8)(9)	12	14	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友だちのよいところを出し合うことで、自分でも気付いていない長所に気付くことができるとともに、自分自身の成長や自分のがんばりにも気付くことができる。 自分が大きくなるには多くの人に支えられてきたことに気付くことで、感謝の気持ちを持ち、これからの生活をより意欲的にしていこうという考えをもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 同居している家族に限ってインタビューを行う。 マイクを使って聞こえやすい環境をつくる。 例年参観などで行うことが多いが、密になるため実施できない、ビデオなどを使って録画しておき、可能であれば、DVDを各家庭ごとに配布できるようにする。 DVDと一緒に見て感謝のお手紙などを使ってお礼の気持ちを伝える。
			80+α (予備時数10。4、5月で15時間を減じ、トータル90時間で想定)	100+α (予備時数5, 合計105)		